

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

せせらぎ 2F

事業所番号	2873400762		
法人名	宝寿会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう		
所在地	兵庫県神崎郡神河町字中茶屋山1241-3		
自己評価作成日	平成25年11月11日	評価結果市町村受理日	2014年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然ゆたかで、四季の移り変わりが感じられる静かな環境に恵まれている。 ・音楽ボランティアによる歌唱やリハビリ体操など、楽しく身体を動かす時間を設けている。 ・入居者の誕生日には、希望食、職員からのメッセージ色紙プレゼントで祝う。 ・併設特養との交流や、行事参加がある。 ・食事は職員が献立作成し、買い物は2日に一回入居者と一緒に行っている。 ・季節感を感じるような献立を工夫している。 ・職員の入れ替わりが少なく、入居者との間に馴染みの関係が生まれている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成25年12月4日

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人、地域の協力を得て、利用者が安心して暮らせる支援がなされている。昨年の大雨の時は、区長を始め地域の方が駆けつけてくれた。職員も地元の人たちで、利用者は地域の習わしや行事への参加が支援され、地域の中で生活できている。以前は利用者全員で出かけていたが、最近、個々の楽しみに寄り添えるよう、個別対応で外出や、趣味の継続等に取り組んでいる。また、家族の中にボランティアとして、体操や手芸を教えたり、季節の花を飾る訪問もあり、楽しみの幅が広がっている。事業所内ではリーダーを中心に、日々の業務について話し合う機会を増やし、職員の質の向上に努めている。より専門性を高める研修等の機会を持ち、利用者本位の支援が充実するよう期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

せせらぎ (1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「入居者が、職員と共に楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホームを目指します」と言う理念の元に、管理者、職員と共有し、意識つけた上で業務に取り組んでいる。	利用者とのコミュニケーションを密に取り、職員間で常時一人ひとりの楽しみの支援を検討している。思いの表出がうまくできない方に関しては、家族に尋ねる等して把握し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町の文化展には、作品を出品し見学することで、地元の方と会う機会ができています。 ・地域の美化デー(年2回)には、職員が交代で参加している。 ・町の行事(チャレンジデー)も参加している	毎年町の文化祭に書道と手づくり作品を出展している。見学に行くと地域の知人との出会いもある。一日おきに利用者が食材の買い物に出かける等の日常的な地域とのつながりも支援されている。小学生、高校生が事業所を授業の一環として訪問し、交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地元の学生ボランティアや実習生を受け入れている。小学生の慰問もあり、有意義な時間を過ごす事がある。地域に向けて、認知症相談窓口を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・H25年度から町の条例により、4か月に一度行う事になった。活動報告、行事報告、入身体状況、入、退居状況などの報告の後、意見交換を行っている。運営推進会議の中で避難訓練を行い、区長様よりアドバイスをいただいた。	民生委員の出席を積極的に働きかけ、11月から4名出席し、地域包括、区長、家族も出席し定期的に開催。民生委員から地域の情報の提供や質問が出され、区長から災害時の協力に関する具体的な提案もあり、会議を通して利用者の安全と地域の一員としての活動の幅が広がる取り組みが推進されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・県からの通達等は、町より配布され、参考にしている。運営推進会議には、必ず市町村担当者へ出席をお願いする。また困難な事例、相談等については、アドバイスを頂いている。	町直轄の地域包括が毎回運営推進会議に出席、事業所から現状報告と相談ができる体制が整っている。行政との会議で、認知症の対応について話し合い、町の認知症相談窓口の登録の提案を受け、町と連携し地域貢献も図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・宝寿会全体では、身体拘束をしない方針であると同時に、ホームでの会議、その都度、職員で話し合いを持ち、確認している ・玄関の施錠については、玄関横の坂道が急な為、安全を考慮した上で、施錠している	身体拘束に関する研修を年1回行っている。行動を止める関わりについて、言葉遣いや介護を主に、職員間で話し合っている。目標達成計画にも、入居者の側に寄り添い、安心される言葉がけを行うことを最優先に掲げている。玄関は安全のため施錠している。	玄関の施錠は開放的な雰囲気のある事業所に閉塞感を与えていると感じられる。工夫の余地がないか職員間で話し合い、今年度の目標達成計画に盛り込みご検討いただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で、虐待防止について勉強を行う機会があった。	虐待防止の研修で、不適切なケアが虐待につながることを学び、普段行っているケアを職員間で振り返っている。互いに情報共有し、注意し合うことを重視している。リーダーが職員の相談にのり、食事会や旅行等、ストレス解消も図られている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・パンフレット等の資料を読み合わせながら理解に努めた。 ・職員研修の場で、外部研修報告により勉強する機会を持てた。	外部研修報告や資料で権利擁護の制度の理解を図っている。現在活用者はなく、利用者の中で、特に必要性を感じる方もいない。	新たに成年後見制度の活用が必要と思われる人や、一層の支援が必要になった場合に備え、全ての職員がさらに、理解を深める取り組みを期待したい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入退居時、サービス内容等は詳細に説明し、同意を得ている。必要な物には同意書ももらっている ・家族の協力の必要性についても、説明している	契約時に、事業所で出来ること、家族の協力が必要なこと等詳しく説明している。まず、利用者、家族の納得を得られるよう、見学に来てもらい、利用決定まで待つ時間を設けている。スムーズな利用につながるよう、自宅で使い慣れた馴染みのある家具や道具を持ってきてもらうよう勧めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議には、利用者及び家族が出席し、意見交換を行う時間を設けている。家族からの要望には応じるように努めている ・ホームに苦情受付担当窓口を設けている	家族会はないが、事業所のパーベキュー大会や法人のふれあい祭りにほとんどの家族が集まり、家族同士の交流ができています。運営推進会議で家族が意見を述べる機会もあり、最期まで看取ってほしい等の思いが寄せられています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のホーム会議で、職員より意見・提案を出せる機会がある。また、毎日の業務の中で改善すべき事、提案など、話ができるようにしている。	ホーム会議の中で、行事、利用者の状況等話し合っている。インフルエンザ予防のための消毒の徹底についても職員から意見が出され、具体的な消毒範囲等、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者、及び職員は、年一回自己評価を行っている。 ・人事考課にて、職員の努力等を評価 ・年一回、衣服費支給 ・パート職への、日曜日手当支給 処遇改善手当は、毎月支給している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・採用後の新人研修 ・月一回職員研修を実施している。 ・地域の施設職員による勉強会への参加 ・必要に応じて、外部研修への参加の機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・町内の3グループホームで、2か月に一回グループホーム連絡会を行っている。本年度は職員間の交流は休止しているが、管理者間での情報交換は行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人や家族の要望をきき、困っている事や不安な事に耳を傾け、ホームへの見学を通じて安心して頂けるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になって考え、本人の思いと相違がないか、理解した上で信頼関係を築く様に努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、ケアマネジャーとの連絡を取り情報を得て、ホームでの支援に努める。併設特養の利用も視野に入れた対応に努める。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、昔からしてきた事(家事、水事、畑、花壇の花植え等)を教わりながら、一緒に楽しみを持ち、家族の様な関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを十分に受け止め、誕生日や外出などの参加をお願いしている。家族との楽しい時間を過ごして頂ける様に心がけ支援している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ二か月に一度同行している。併設の特養、デイサービスに知人が来ている時は、職員間で連絡を取り合い、会話が出来るよう支援している。	利用者との会話の中や、家族からの聞き取り、以前のケアマネ等から情報を得ている。以前の趣味を活かして、園芸や書道、スケッチ、縫い物を楽しんだり、地域の寺等へお参りに出かけている。民生委員や併設特養の利用者の訪問もあり、関係継続が支援されている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	視覚障害者への気遣いや介護を必要とする利用者に対し、思いやりを持ち助け合いが出来る様テーブルの席を配慮している。又、トラブルになった時は、職員が仲裁に入っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他施設へ移られた方、入院されている方への面会やお見舞い。 ・告別式等への参加。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者自体、段々と重度化し、コミュニケーションもとりにくい状態ではあるが、日頃から声かけやスキンシップに努め、意思を伝えやすい環境作りを心がけている。	利用者の変化を分かりやすく記録した「状況シート」を作成し、全職員が現状を確認できている。受診や外出時、職員と一対一の時の会話を大切に、意向の把握を行っている。困難な場合は、ふとした言葉や表情で把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家人から生活の様子を聞きながら、地域のケアマネからも情報を得ている。又、日常に於いての入居者の言動等からの情報も、職員同士共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活動作記録、ケース記録、職員間の口頭での引き継ぎ、引き継ぎ帳等で、入居者の状態を把握出来るよう心がけている。病院受診記録も、パソコンにて保管している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人の希望を優先に、実現可能な計画を立てている。本人や家人からの希望を聞く事が難しい場合は、日頃の様子を観察しながら、考えるよう対応している。	利用者、家族の希望を基に、課題を抽出し、事業所でどのような対応ができるか職員間で話し合っている。事業所の理念である「利用者一人ひとりの楽しみ」を大事にした介護計画を作成している。モニタリングは半年毎、見直しは随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活動作記録を基に、個人のケース記録に記入している。(パソコン内でも管理)引き継ぎ帳にはサインだけでなく、口頭でも伝え合い、日中、夜間の様子を把握出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望により、入居者の居室に宿泊、食事と一緒に出来る様にしている。急な外出や外泊にもその時々に対応している。併設特養の行事にも参加し、交流を図っている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張美容デー(月一回)。 健康懐メロ教室、習字教室、若菜会、きらり映画会、家人による手芸教室等。 民生委員、区長、その他ボランティア訪問。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ病院に、家人や職員付添いで受診されている。 施設かかりつけ医師の往診も可能。	現在多数の利用者が、法人嘱託医をかかりつけ医とし、緊急時等必要に応じて往診にも対応するなど、日常的な健康管理や相談にも応じている。協力歯科による往診にも要望に応じている。個別に認知症への対応により精神科を受診している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム自体には看護師の配置は無いが、併設特養の看護師にアドバイスを得たり、又入居者の急変があれば、協力を得ている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合には、ホームでの生活状況や、情報を提供し、病院との情報交換に努めている。又、見舞いにも出向き、入院の様子等を把握出来るよう、対応している。退院に向けてのカンファレンスに同席する事もある。	利用者のいつもと違う状態を迅速にキャッチするなど、職員の気づきを重視して入院回避に努めている。入院の際は早めに家族と相談するなど、早期退院に向け医療関係者と話し合い、情報の共有を図っている。特に転倒骨折の場合は、リハビリ状況の確認も重視している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者家人と話し合いの場を設け、その時々適切な医療や方法を確認し、事業所で出来る事、出来ない事を説明している。又、何よりも本人にとって、一番よりよいケアが出来るよう心がけている。	入所時に事業所の方針は説明している。利用者の状態変化等、早期から重度化への対応について、利用者、家族の意向を受け止め、医療関係者と話し合いの場を随時設けている。現在、最後まで事業所で希望はあるが、チーム体制の充実も含め、事業所は十分な検討が必要と考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の際のマニュアルを設置している。又、その際に対応した職員からの伝達情報も、得るようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養との合同消防訓練の実施。又、消防署からの防災指導。9月の大雨で、裏山が崩れた為、併設ユニットに避難し、速やかに避難出来た事は、全職員が避難方法を話合っていたからである。	年2回、法人合同による定期総合訓練を利用者も共に実施している。火災発生の場合の地域とのつながりを重視するとともに、普段から消防署の視察を得るなど協力関係が確保されている。大雨の際は家族や地域代表者からの協力もあり、速やかな避難となったが、土砂災害への対応を役場に再度申し入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保		利用者のこれまでの習慣や一人ひとりの価値	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の一人一人の身体的な状態を職員が把握し支援している。 入居者に対して、自尊心やプライバシーを傷つける事のない様な、声かけを心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の声かけや対応を心がけている。利用者の出来なくなってきていることを職員自身が認識し、出来るように促す働きかけにより、自尊心を損なわない支援に努めている。会議等や日々職員同士注意し合い、共有を図っている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の気持ちや表情の観察、色々な声かけにより選択肢を広げ、自らが決める事が出来るように努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 身体の状態や精神面での配慮を行い、無理のない様に支援し、ゆっくりと過ごして頂いている。 外出の希望があれば、出来るだけ応じる様にしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 外出時や、誕生会(同窓会)の様な時には、声かけしながら自分で衣類を選んで頂き、職員がお化粧をしている。 入浴後には、化粧水、乳液、クリームを購入され、身だしなみを整えている。 毛染めなども支援している。 		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 好物を取り入れた献立を考えている。 盛り付けにも食事の意欲や楽しみになる様な工夫をしている。 準備や後かたづけ等にも、自分のできる事で参加して頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者個々のやり方を尊重し、自然に携われるよう声かけするなど、役割を発揮できる環境を重視している。 利用者からのリクエストや収穫した野菜を使った季節を重視したメニューを取り入れ、参加機会を増やす等関心を促すよう心がけている。食べたい物をおいしく食べてもらうことで楽しんでもらうことを大事にしている。 	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 献立を考える時、肉、魚のバランスに配慮しているが、食べ難い人には、刻むなどして対応している。 食事・水分量の記録を行い、摂取量の少ない方には、状態に応じた、口当たりの良い物を補うようにしている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後、口腔ケアの声かけ、一部介助に行っている。 義歯は、夜間の時間帯に、ポリデントに浸している 		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・失禁を防ぐ為、排泄時間を記録し、本人の意思を尊重しながら、トイレで排泄出来るように努めている。 ・温かいタオルを使用し、清潔に努めている 	<p>個々の習慣や体調変化に沿った、さりげない誘導を心がけている。車いす利用者が自分でパット交換できる人もおり、その人にとっての適切な自立を支援している。やむをえず失禁した場合は、周りへの配慮から居室、場合によってはトイレで交換することもある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・献立に野菜や果物を多く取り入れたり、腸の働きをよくする乳酸菌飲料及びヨーグルトを取り入れている。 ・入居者の希望があれば、便通を促す薬を服用して頂いている。 		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事日以外は毎日午後2時頃より入浴を行っている。 ・バイタル測定を行い、体調を確認しながら入って頂く様にしている。 ・発汗や失禁等、清潔保持が必要な場合はできるだけ入って頂く様にしている。 	<p>原則、2日に1回の入浴としているが、その日の健康状態を重視し、本人の意向を優先したり、タイミングを見計らって声かけている。利用者の好みの時間や湯温を心がけ、入浴剤の利用や季節風呂も楽しんでもらっている。職員との会話が弾んでいる人もいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じた寝具を使用し、居室の湿度や温度、照明に配慮している。 ・眠れない入居者には温かい飲み物を提供したり話を傾聴し、入眠促進に努めている ・夜間、眠りが浅い方には必要に応じて、午前か午後に休んで頂いている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ファイルに処方箋を添付し、直ぐ確認出来る様にしている。 ・服薬の有無及び介助者の名前を記録し、残している。 ・薬の変更や追加等があれば引き継ぎ帳へ記入し、全職員が分かるようにしている。 ・服薬が困難な場合は、ゼリーで包むようにして服用して頂く様にしている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状況を見ながら、生け花、洗濯干し、洗濯たたみ、食事の準備等、自分の役割として楽しみを持ち、出来るように支援している。 ・誕生日には希望食を取り入れたり、外食 		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅地域での集まり(御大師さん)の参加 ・家族と受診後、外食や、自宅への訪問 ・昔馴染みの美容院への利用。 ・毎年行われる同窓会へ家族付添で出席。 ・家族が無理な場合、職員と買い物に出かける機会をもうけている。 	<p>食材の買物に同行して品定めしたり、利用者の不足の日用品の買物など、最低でも1日おきに買物に出かけている。地域のカフェや行事に参加したり、希望者によるドライブも兼ね少し遠方に行くこともある。併設施設行事の参加交流を楽しみにしている人、家族と旅行に出かける人もいる。</p>	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少額ではあるが自分で持っている入居者がいる。 ・ホームで預かり希望時に本人に渡し買い物できるようにしている。 ・行事や外出の際はホーム立て替え金にて使えるようにしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・話をしたい時に、ワンコールで繋がる携帯電話を持たれている入居者もいる。 ・また、電話をしたいと希望された時は出来るだけ希望に添える様にしている。 ・年賀状やクリスマスカードも届いている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には季節を感じて頂ける様な、毛糸や布、また、折り紙等で作った物を入居者と共に創り飾っている。また、季節の花や置物も玄関に飾っている。	1階リビングからは、花壇やプランターの花が眺められ、自由に水やりや手入れができる。台所は複数の利用者、職員が共に作業できるアイランドキッチンで、調理の様子もよくわかる。リビング中央の和室の炬燵では利用者が横になったり、テレビを見て過ごすこともある。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング窓際に大きなソファを設置し入居者が自由に座れる環境を作っている。また、畳スペースにおいて、冬場はこたつをしている。ホーム外では外気浴や散歩時に休めるベンチを設置している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・身体機能が低下し、介助を必要とする方が増えて来た為、介護用ベッドを使用する入居者が増えているが、時計や思い出の写真、ぬいぐるみ等を飾り、本人が居心地良く過ごせるよう配慮をしている。	使い慣れた調度品や家具を持ち込み、趣味の手作り作品を飾っている人、必要に応じて収納家具を購入し、衣類等を整理している人もいる。利用者のこれまでの生活に近い環境を心がけ、その人が落ち着ける雰囲気作りを行っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下やトイレ内・浴室内に手摺りを設け、安全に歩行出来るように配慮している。 ・また、トイレには目の高さ「トイレ」と大きな字で表示している。 ・キッチンでは、入居者に合わせた高さの対面カウンターを設置している。		